Ⅶ. 紀 行 文

四国八十八ヵ所お遍路の旅

森　　信　夫
渡　邉　　力
高　橋　弘　允
八　巻　剛　正

いつ頃からだろうか、四国八十八ヵ所を巡る旅に魅せられたのは

具体的な計画を立てるため、２年ほど前から現地ツーリストから情報集めを開始したが、あいにく新型コロナの感染が拡大し、飲食店や多人数が集まる施設は営業時間を短縮し、やむなく閉鎖するところも出てきた。四国でもお遍路さんが少なくなり、参拝の受付を中止する霊場もあったと聞いた。

しかし、今年になって３回目のワクチン接種が進み、まん延等防止措置も全国的に解除されたので、４月に四国八十八ヵ所を巡る旅に出ることにした。この随想・紀行文は４人の同行者がこの旅に期待したこと、実感したこと、これからの生き方に影響を与えそうなことなどを思いつくままに記したものである。筆者らは夫々の執筆内容について事前に調整してないことから、重複や異なった受け止めを記述する場合があるかも知れないが、その点は最初にお断りしておく。

一般に信仰に基づいて聖地を訪れることを「巡礼」というが､四国八十八ヵ所巡りの場合「遍路」といい、巡礼者を親しみ込めて「お遍路さん」と呼ぶ。筆者らは必ずしも篤い信仰心を持ち合わせてないが、宗派を問わずにお参りする人々の願いを成就する信仰の場としての四国八十八ヵ所に魅せられた者たちである。

お遍路さんには四国霊場を巡るのに相応しい巡拝装束がある。徳島空港に到着後直ぐに一番札所の霊山寺門前にあるお店に向かいお遍路の準備を整えた。巡拝に必須の念珠（ねんじゅ）、金剛杖、略式法衣の輪袈裟（わげさ）、納経帳（御朱印帳）に加え、お遍路さんの正装である白衣・すげ笠・山谷袋を用意し、事前に送られてきた納め札と蝋燭 200 本・線香３箱・賽銭入れを持って出発する。

晩春の遍路路は美しい新緑に覆われていたが、遅咲きのしだれ桜や八重桜、そして淡紫色のフジの花も咲いていた。未だに残るコロナ過の影響からかお遍路さんの数も少なく、遠く響きわたる持鈴の音がもの悲しさを醸し出す。般若心経に合わせて打ち鳴らす音木（おんぎ）の甲高い響きと、男性コーラスのようにも聞こえる美しい般若心経の読経が耳に残る。

51 番札所石手寺の拝礼を終えた筆者ら

霊場拝礼には以外にも厳しい心得がある。主なものとして、①金剛杖は弘法大師の分身なので、宿に到着した時は大師の足を洗う気持ちで心を込めて杖の根本を洗う、②橋の下ではお大師様が休んでいるとの謂れから杖をつかない、③参拝後は鐘を撞かない（戻り鐘は金が出るとか死人を送るもので縁起が悪いとされている)、④心より祈り般若心経を唱える、などがある。他にも蝋燭や線

香に火をつける時は他人から貰い火してはいけない、山門や仁王門を出入りする時は両手を合わせて一礼する、などがある。これらはお遍路さんの心得としてしっかり根付いている。金剛杖の扱いを例にとれば、すべての宿泊所において遍路一行の到着に合わせ、杖を洗う水の入ったバケツと杖を拭くタオルを正面玄関に用意してくれたのには驚いた。

筆者らは四国八十八ヵ所霊場を巡る交通手段としてロケバスのような10人乗りのジャンボタクシーを利用し、高野山への結願お礼参りを含め12日間で約2,000kmを走破した。我々の先達は普段はタクシー運転手をしており、旅行会社からお遍路先達の要請があればスポットで出向くとのこと。先達は俄か遍路の筆者らと旅を共にし、参拝方法やマナーを丁寧に教えてくれるので、初心者としては大いに助けられた。

また大きな荷物を背負い金剛杖をつく歩きお遍路さんの姿も時おり目にした。歩いて遍路巡拝するには40～50日かかるが、雨の日も風の日も黙々と歩くお遍路さんの姿には頭が下がった。

般若心経を読経する筆者ら

筆者らは四国八十八カ所の霊場を番号通り（順打ちという）拝礼した。各寺では本堂と大師堂の２カ所で読経したが、般若心経等の読経は初めてであり、一生懸命フリガナを追って読むのが精一杯で小さい声しか出なかった。夕食後に一部屋に集まり般若心経の意味、読経する場合の息継ぎ位置などを語り合った。

八十八カ所の半分ほどの霊場を巡ると読経にも慣れ、次第に声が出ていることに気づいた。100回近くも読み上げれば度胸が付くもので、先達として皆をリードする役も何度か経験した。自宅に仏壇がある場合や法事に臨む場合など、輪袈裟を付けて般若心経を唱えれば有難がられるのでは、など話しが盛り上がった。

四国八十八カ所お遍路路を旅して、地元の人はお遍路さんをとても大切にしていることに気づいた。道々でお会いすると「ようお参りなさってくれました」と一声かけてくる。こちらも「お世話になります」と軽い会釈で返す。お遍路路には1,000年以上ものやさしい時間が今も絶えることなく、ゆっくりと流れている。自分はこのように俗塵を離れた心安らぐ旅を求めていたことに気づいた。

お大師様との同行二人旅をお終えるにあたり、常に楽しい話題の提供と温かい心配りを頂いた渡邉力氏、高橋弘允氏、八巻剛正氏並びに先達の児玉氏に対し、心より感謝申し上げる。

【 森　信夫 】

何かを求めて！四国遍路の旅

令和４年４月吉日。白装束に輪袈裟、菅笠に金剛杖を持った４人が四国八十八カ所遍路の旅の一番札所霊山寺の山門に立った。同行二人の旅。先達に参拝方法の指導を受けながらの始まりである。どうなることかと心配であった先達が般若心経を唱えながら初めてにしては声がでていたので安心したとのこと。１日目は手順を覚えることが優先し何をお願いしたか定かでない。

私は60歳のころ秩父34カ所札所巡り、そして坂東33カ所札所巡りを体験した。特に信仰心が有った訳ではなくただ納経帳に御朱印をいただくのが主であった。次はいつか四国八十八カ所の遍路をしたいと思っていた。その機会が突然、電友会東京搬送支部の仲間で遍路の話題が沸き上がった。お礼参りの高野山まで行けるという。折しも77歳の喜寿を迎えこれを逃すとチャンスは来ないと思いガイドブックを購入し般若心経を写経

し覚えて臨んだ。大きな声で唱えるのは初めてでありブレスは難かしいいものの読経が出来安堵した。遍路５日目、亡き母の命日にあたる日があった。母が逝って 30 年。その日は１日、母の供養を念じた。これもまた何かのご縁であり有難く思い目的が１つ達成できた。

人には十二支による守りご本尊があるという。私の守りご本尊は不動明王である。45 番札所岩屋寺のご本尊は不動明王である。長い参道、ご真言を唱えながら登った。山上に眼下を見下ろしお守りくださるお不動様に家内安全と天下泰平のお札を納め長く手を合わせた。納経帳をめくると太く書かれた御朱印に感動する。目的２つ目達成。

45 番札所岩屋寺にて筆者

岩屋寺の御朱印

45 番を過ぎると高知（修行のみち）～愛媛（菩提の道場）へと遍路は続く。高知でも道後温泉でも金毘羅山でも宿から一歩も出ず、新聞もテレビも見ず家族への一日の連絡だけで過ごした。厄除け、延命、ぽっくり、癌、脳、いろいろなお願いをしてきました。目的は全て達成です。
宿舎においても車中においても不綺語、不邪見が聞かれず４人の顔が仏に見え満願を迎えることができた。

高野山に壇上伽藍と称する聖地に三鈷の松がある。空海が唐から日本に帰る時「伽藍建立の地を示したまえ」と手にする三鈷を東の空へ向かって投げた三鈷がこの松の木にかかっていたとされる。三本の葉が特徴で探し当てると幸運をもたらすということで５人は懸命に探す。幸運にも見つけることができた。何というめぐりあわせか？不動明王に感謝である。

壇上伽藍の三鈷の松

幸運をもたらす三鈷の松葉

奥の院に 88 カ所巡りの報告と御礼を最後の読経でこの旅は完了した。
同行の阿弥陀如来、普賢菩薩、虚空菩薩に感謝である。

真言密教では仏さまの真理を体得するために、生きたまま仏さまとひとつになれると説いています。「即身成仏」身口意の三業。身＝肉体的行為、口＝言葉、意＝心のそれぞれにおいて仏さまをまねることで、だれでも仏さまになれると説いています。これからの人生、十善戒を心し生活を目指そうと強く感じている今日です。

【 渡邉　力 】

四国遍路の旅：目的は心の断捨離

私の家の宗派は曹洞宗です。その為、毎朝道元禅師の八大人覚（小欲、知足、楽寂静、勤精進、不妄念、修禅定、修智恵、不戯論）を唱えながら歩いています。10 年以上続けているのですが、一向に過去の出来事に対する心の整理が出来ません。歩き終えた後の日常生活では、それらが次々と脳裏に現れてきます。所謂煩悩でしょうか。今回のお話を頂き、心の整理をするのに良い機会と捉え参加することにしました。

事前に資料を拝読し知識を得たつもりですが、実際の霊場巡拝は大変でした。般若心経は幾度か写経しましたが､唱えたことは一度もありません。その為声に出して上手く言えません。その他のお経も一緒です。宿に入り寝る前に幾度か練習、ある程度声を大にして唱えられるようになったのは 20 番霊場を過ぎた頃でした。それに霊場への遍路道は険しいところが多く、鬱蒼と茂った樹木の中に 100 段以上の階段等があり、そこを上り降りするため足腰にかなりの負担がきました。歩くことには自信があったはずなのに、途中幾度となく休憩することになりました。

徳島県（阿波国：発心の道場 23 寺）を過ぎるまで、それらの苦しみは続きました。高知県（土佐国：修業の道場 16 寺）に入った頃から、ある事に気付きました。金剛杖は弘法大師の分身であり、同行者です。御宝号（南無大師遍照金剛）を唱えながら歩けば救われるのでは。直ぐに実践しました。すると不思議なことが起きました。足腰が痛くならない。そればかりか雑念が消えて無心になったのです。その頃から、お寺の境内にある石仏を見ると心が安らかになり、お経も落ち着いて唱えられるようになりました。

私の干支（亥）の守り本尊は阿弥陀如来です。御本尊が同じお寺で、その真言（おん　あみりた　ていせい　からうん）を、心を込めて唱えました。そして、仏教の三法印（諸行無常、諸法無我、涅槃寂静）をしみじみ実感しました。

新緑美しい８番札所熊谷寺の参道

45 番札所岩屋寺の地蔵菩薩群

愛媛県（伊予国:菩提の道場 26 寺）に入った頃、同行者３人のお顔が、仏様のように柔和になっていくのを感じました。私自身霊場巡拝を重ねる毎に、自然の中に心が溶け込むような安らぎを覚えました。香川県（讃岐：涅槃の道場 23 寺)、高野山へとそれは続き、そして今回の遍路旅の目的、心の断捨離が間違いなく出来たことを確信しました。

帰路に就いた後も、毎朝歩きながら御宝号（南無大師遍照金剛)を唱えています。｢てくてく法師｣になれるよう修業を続けたいと思います。

同行者の皆様、今回このような機会を与えて頂き有難うございます。感謝、感謝です。

【 髙橋　弘允 】

腰痛と足痛を抱えながらも結願出来たお遍路の旅

私は、七十歳代までは、ほとんど体調に問題なかったが（高血糖値を除き）80 歳の誕生日を迎えた昨年１月に突然腰と足に強い痛みが生じました。整形外科医の診断結果は、軽度の脊椎間狭窄症とのことであり、治癒するためには、ウオーキング等足腰を動かすことを止めて家でゆっくり休むことが必要だと言い渡されました。

そんな中で森さんから四国お遍路のお誘いがありました。

私の足腰の痛みは少しずつ快方に向かっており、更に数年前に妻と車で四国一周のドライブに出かけたおり宇和島まで行ったところで台風が四国沖に接近したことから、足摺・室戸行きを断念した経緯がありました。そのため、旅行とお遍路は異なるものの是非行ってみたいと私は参加を即断しました。ところが出発数日前になり再び足の痛みがひどくなり参加を断念しなければとも思いました。しかし、同行する３人から「４人だけのお遍路でありあなたのペースに併せてみんなが行動できるようバックアップするから安心して」との温かい言葉をかけてもらい、ようやくお遍路の旅に出発することを決断しました。

半ば旅行気分で徳島空港に到着した私ですが、一番札所霊山寺門前のお店で事前に予約しておいた巡拝装束に着替えた途端にこれからお遍路に出発するのだと気持ちが切り替わりました。道中を同行していただくドライバを兼ねた先達から参拝方法やマナー等の指導を受け 12 日間のお遍路の旅がスタートしました。

巡拝する 88 ヵ所のお寺の境内にはご本尊を祀る本堂と弘法大師を祀る大師堂があり、それぞれに線香・灯明をあげ、お賽銭・納札を納めて般若心経などを唱えることの繰り返しになります。

第一日目は、早朝に自宅を出て空路徳島へ、そして旅支度を整えて巡拝に出発し第１番霊山寺から第７番十楽寺まで一気に回り、宿舎である十楽寺の宿坊にたどり着いた時には本当に疲れました。無我夢中の一日でこの後の 11 日間が思いやられましたが、翌早朝本堂で住職の朝のお勤めに参加させていただき、住職の本物の（？）般若心経が心に響きました。

第二日目からは般若心経のお陰か足の痛みもさほどではなく、少し余裕が出てきて寺の佇まいや自動車から見える風景などを眺め、またそれを撮影することができました。

私の甲府市にある菩提寺は臨済宗妙心寺派のお寺ですので、法事等では住職と一緒に必ず般若心経を唱えますので般若心経にはとても親近感があります。四国八十八ヵ所のお寺の大多数は真言宗ですが、臨済宗のお寺も１１番藤井寺と 33 番雪渓寺の２寺あり、ご本尊は私の菩提寺と同じ薬師如来であり般若心経を唱えるときは特に力が入りました。

75 番札所善通寺（弘法大師生誕の寺）にて

88 番札所大窪寺で結願

私は、旅行するときは徒歩・自動車・列車・飛行機にかかわらず必ず地図を片手に風景と対比することに大きな喜びを感じています。今回も旅行案内所や宿泊したホテルで四国４県の地図を入手して沿線の風景を思い切り楽しみました。更に、四国各県の地図には必ず八十八ヵ所のお寺を記載していることは新たな発見でした。

また、私は今回の旅に一眼レフ・小型カメラ・スマホと３台の撮影機材を持参し、巡拝風景や寺及び沿線風景の撮影はカメラを切り替えて撮影してきました。私は同行した３人の中では信仰心が最も薄いと思っておりますが、このお遍路の旅で私なりに多くのことが見いだせればこれに勝る喜びはないと考えておりました。

一方、乗り物大好きの私は今回の旅で運転本数の少ない四国の鉄道車両を撮影したいと車中で鉄道線路を探していましたが、ありました日本で唯一実用化しているＤＭＶ（線路上では列車に、道路上ではバスに変身する車両）を道路上と線路上を走る姿を見ることが出来、そして間近でそれを撮影することができました。また、ＪＲ四国では漫画家のやなせたかしさんにちなんだアンパンマン列車が運行されていますが、私は幸いにも車窓越しに見ることができました。

最初の間は長い・きついと思っていたお遍路の旅でしたが、愛媛県に入るころから心に多少の余裕が生まれ、この旅の良さが理解できるようになりました。第 88 番大窪寺での結願、高野山奥の院への結願のご報告とお礼の参拝を終え、今回のお遍路の旅に参加し結願できて本当に良かったとの思いがこみあがってきました。

今回の四国お遍路の旅には最後の最後に大きな喜びが待っていました。それは伊丹からの帰りの空路で通路側の座席がリザーブされていたのを、夕方の富士山を撮影したいと思い空港で窓側の席に交換してもらいました。その結果、房総半島上空では富士山をバックに金色に輝く東京湾と房総半島の水田の風景は息をのむものでした。これはまさに空海さんのおかげと思っています。更に都内上空は昨年から開設された都心上空の進入ルートを飛行したことから高度 1000 ～ 400 メートルからの都心風景を見事に撮影することが出来ました。この写真については、今回の会報に掲載させていただきますので是非ご覧ください。

今回の四国お遍路の旅を無事に終え素晴らしい経験が出来たことを幸せに思います。

特に、同行した森さん、渡邉さん、高橋さんそれに先達の児玉さんには大変お世話になりました。おかげで無事に結願出来ましたことを心から感謝いたします。

【 八巻　剛正 】